

# 危機管理技術研究チーム発足



危機管理技術研究センター 土砂災害研究官 西 真佐人  
同 地震防災研究室 主任研究官 田島 明

(キーワード) 危機管理、地域防災力、ソーシャルキャピタル、大規模災害

## 1. 研究チームの目標

危機管理技術研究センターは砂防、水害、地震防災の3研究室からなり、それぞれの分野の災害防止に向けた研究を実施している。研究にあたっては、それぞれの災害において避難や被害状況把握など共通の課題を抱えていることから、それらの共通課題を災害の種類にかかわらず横断的に検討することが効果的である。このため、土砂災害研究官をリーダーにセンター内の部付研究官と3研究室の研究員計8名により、危機管理技術研究チームを2009年(平成21年)4月に立ち上げた。

同チームでは、土砂災害、洪水および地震などの個別の現象にとどまらない共通の課題について検討することとし、現在、「ソーシャルキャピタルの特性に応じた地域防災力向上方策」などについて研究を行っている。

## 2. ソーシャルキャピタルの特性に応じた地域防災力向上方策に関する研究

現在、自然災害に対する被害軽減のために、ハード対策に加えてソフト対策を交えた総合的な対策が進められている。

警戒避難に代表されるソフト対策は、公的機関の活動のみで成り立つものではなく、災害に直面する住民の行動によって完結する。従って、その効果をあげるためには、地域住民の防災行動をさらに活発化させることが重要である。

2009(平成21)年度から3ヶ年で実施する本研究は、災害に対する備え、防災情報の認知力、災害時における避難力等災害時に地域住民が適切な防災行動をとることを、地域防災力という概念であ

らわし、地域防災力を向上させるために、施設管理者としての行政が、通常時の業務のなかで住民とどのように関わるべきかを提案するものである。

地域防災力は、中山間地や都市部など地域の立地条件や社会的特性によって異なっている。本研究では、「集団内部あるいは集団間での協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることができる、『ネットワーク』『社会的信頼』『社会参加』からなる地域社会の性質」であるソーシャルキャピタルの観点を用いて地域特性を再整理する。

最終成果としては、地域特性に応じて効果の高い行政対応のあり方をガイドラインにまとめることを目標としている。

## 3. おわりに

本研究の他にも、災害時の初期対応を円滑に進めるための情報技術の方向性を検討する「大規模災害時における被害情報把握システムに関する研究」、公共施設管理者の災害時対応の高度化を図る「大規模災害時における応急対策に関する研究」を実施しており、今後、災害時に発生する様々な局面に対して研究を進める予定である。

特に、気候変動に伴う水災害の激甚化や東海地震等の巨大地震の切迫化への対応も視野におき、広域的に甚大な被害を発生する大規模災害時に発生する複合的な被害への対処方針について、関係する研究室、防災関係機関と連携しつつ検討していきたいと考えている。